

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立仰木の里小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

学力調査について滋賀県の平均正答率と比較すると、国語では「話すこと・聞くこと」の領域で平均を上回っています。「書くこと」「読むこと」では平均をやや下回っています。

算数では、「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データ活用」の領域において県平均を上回っています。

学習状況調査では、算数の学習に対する興味・関心・意欲や自分の考えを発表する際にタブレットなどのICT機器を使う機会は県平均を大きく上回っています。また、自己有用感についても、県平均を上回っています。「本を読むことを好む」が県平均より上回っていますが、国語の学習に対する興味・関心は県平均を下回り、学習して学んだことをほかの場面でいかしたり、学級での話し合いを自分が努力するべきことなどにつなげたりすることについても、県平均を下回っています。

《強み・弱み》

本校の強みは、ICTの活用量と学力調査での選択や短答形式の正答率が高いところです。基礎的な力が身につけていることが学力調査の結果から読み取れます。また、自己有用感が高く、友だち関係に満足して、学校生活を楽しんでいる児童が多いところも強みです。一方、弱みは、国語・算数ともに、記述の正答率がやや低いところです。記述式の問題には、全く解答しなかった児童の割合も多かったです。文章で自分の考えを表現することや文章、話の組み立てを工夫して文章化する力に課題が見られます。学習したことを自分の生活につなげることについても意識が低い傾向があります。

【指導の充実に向けて】

- 「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業改善に取り組み、ペアやグループで考えを聴き合い、自分の言葉で表現する活動をより多く取り入れていくよう努めます。
- ECタイムにeライブラリやガッテンプリントを活用し、より一層の基礎基本の定着を図ります。
- 学習の振り返りを書かせる際には、条件の設定（キーワードを入れるなど）をし、書く力の向上を目指します。教師の説明ではなく、自分の言葉でまとめたり表現したりする機会を意図的に増やします。
- 生活につながる課題を設定し、自分の考えを文章や図などを使って筋道を立てて説明する活動を取り入れます。また、資料から分かることをもとに考察し、説明する活動を多く取り入れます。
- 今後も「見つけよう☆いいところ」を合い言葉に、月1回の「人権の日」や「みのりの木」など学校全体での取り組みに加え、学級や学年、児童会活動、地域との交流など様々な人との関わり合いの中で、自己有用感を高める取り組みを進めていきます。